

在日米軍司令官サルヴァトーレ・A・アンジェレラ空軍中将 殿

2014年11月26日

横田基地問題を考える会  
横田基地の撤去を求める西多摩の会  
横田基地もいない市民交流集会実行委員会  
第2次新横田基地公害訴訟原告団  
第9次横田基地公害訴訟原告団  
横田・基地被害をなくす会  
連絡先：青梅市大柳 1430-302  
TEL/fax 0428-22-6273 岩田

## 申し入れ書

米軍の航空機オスプレイについて以下のことを申し入れます

### 記

#### 1 MV-22 オスプレイの米空軍横田基地への飛来・訓練を中止すること

米海兵隊普天間基地に配備されているMV-22 オスプレイが、米空軍横田基地に7月、8月、9月、10月、11月と毎月飛来・離発着してきました。

沖縄県民の反対を無視してされたMV-22 オスプレイは、日米合意を守らず、沖縄県民を苦しめてきました。横田基地への飛来に際しても、病院や学校、住宅密集地の上空での飛行など、2012年9月の日米合同委員会での「米国政府は、周辺コミュニティへの影響が最小限になるよう飛行経路を設定する。この目的のため、進入および出発経路は、できる限り学校や病院を含む人工密集地上空を避けるように設定する。」また「運用上必要な場合を除き、通常、米軍の施設・区域内においてのみ、垂直離着陸モードで飛行する。」との日米合意は遵守されていません。

日本政府は、「沖縄の負担軽減」を口実に、オスプレイの飛行・訓練を日本全土に広げようとしています。これまでも、本土へ訓練移転しても、沖縄の負担は軽減されず、新たな負担が押しつけられています。オスプレイの飛行拡大は、危険を日本中に拡大するものです。

オスプレイは、これまでに墜落などで39人が死亡しており、構造的に欠陥のある飛行機です。

住民の安心・安全のため、何よりも命を守るため、人口密集地である米空軍横田基地へのMV-22 オスプレイの飛来、訓練を中止することを申し入れます。

## 2 地元自治体や住民に対する事前の情報提供を厳守すること

防衛省北関東防衛局から周辺自治体へのオスプレイ飛来通告は、8月、9月の時には、飛来の前日で、地元自治体や住民を無視したものでした。さらに10月24日は、地元自治体には、なんと飛来の2時間前、何機のオスプレイが飛行するのかわからないという、まさに無通告に等しいものでした。

欠陥機オスプレイの、しかも日米合同委員会合意も守らず、基地外の住宅地上空でのヘリモードでの飛来は、住民にとって、絶対に許すことのできないものです。

10月8日、在日米海軍のテリー・クラフト司令官は、黒岩神奈川県知事との会談の中で、「オスプレイは米軍の中で最も安全な飛行機」と説明し、今後「飛行がルーティン化するなかで、個別に情報提供することはない」と明言しました。オスプレイが安全な飛行機でないことは、米軍が誰よりも知っているはずで

す。最も危険な飛行機オスプレイについては、特に事前の情報提供を厳守することを申し入れます。

## 3 CV-22 オスプレイの米空軍横田基地への配備計画を断念すること

沖縄タイムスやテレビ朝日の報道によれば、「日米両政府が米空軍の新型輸送機 CV-22 オスプレイ 12 機を早ければ来年 7 月にも米軍横田基地（東京都福生市など）に配備する方向で調整していることがわかった。…… 政府関係者が 4 日明らかにした。」とのこと。日本政府が横田基地への CV-22 オスプレイ配備について主導していることも伝えています。

防衛省の資料「MV-22 の事故率について」（2012.9.19）によると MV-22 オスプレイの事故率は 1.93、CV-22 オスプレイの事故率は 13.47 です。

CV-22 オスプレイは「米空軍が特殊作戦機として使用」「特殊作戦という独特の任務所要のため、より過酷な条件化で訓練活動を実施」とも書いています。

防衛省も事故率の高いことを認める CV-22 オスプレイを、横田基地に 12 機も「配備する」という乱暴極まりない計画は、絶対許せません。横田基地は無論のこと、他の日本の基地にも絶対配備しないよう申し入れます。

## 4 我が国の司法判断に従い、騒音被害を直ちに減らすこと。

横田基地周辺住民は、横田基地を使用する航空機により耐え難い騒音被害を被ってきました。

この騒音被害にたいしては、日本政府は、裁判所から繰り返し、騒音の軽減と損害賠償を命じられています。

日本政府も米軍も、この裁判所の司法判断に服して、直ちに横田基地の航空機の離着陸や旋回訓練などの飛行回数を減らす努力を行うべきです。

ところが、飛行機騒音の実態をみると、福生市熊川の測定地点では3秒を超える70デシベル以上の騒音が、2013年度（2013年4月～2014年3月）は11,137回で、2012年度の8,076回より3,061回も多く、ここ10年で最多でした。

しかも、2014年度前半（2014年4月～9月）は、5,903回で、昨年同期の5,235回より668回も騒音回数が増えています。

横田基地でのC130の旋回飛行やパラシュート降下訓練、オスプレイの飛来・訓練は全て止め、騒音被害および墜落・落下物の危険を除去するよう申し入れます。

## 5 米海兵隊普天間基地に配備されたMV-22 オスプレイは撤去すること

横田基地があるが故に様々な苦しみを押しつけられてきた私たち住民は、たくさんの米軍基地がある沖縄県民の様々な苦しみを、我が事のように感じています。

いま沖縄では、米海兵隊普天間基地に配備されたMV-22 オスプレイ24機が、無法な飛行を繰り返し、身体的にも精神的にも人々を苦しめ、その影響は深刻です。

横田基地周辺住民や沖縄県民の切実な願いに応える道はただ一つ、オスプレイをそっくり米本国へ持ち帰ることです。

普天間基地配備のMV-22 オスプレイ24機を撤去することを申し入れます。

以 上